令和５年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立　赤塚第一中学校

■児童・生徒の学力の状況

〇授業中真面目に取り組む生徒が多いが、課題に粘り強く取り組む態度など学習への主体性に課題があることがわかる。
〇学年が上がるにつれて改善されてはいるが課題の提出期限を守れない生徒が若干名いる。
〇日常での見取りや各種調査等の結果から、生徒の学習状況における課題は、国語では「話す･聞く力」、数学では「数学的な見方・考え方」、英語では「書くこと」の標準的な力が十分でない者が多いことである。
〇生徒アンケートの結果から、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

〇生徒の真面目に取り組む姿勢を生かした、生徒自身が主体的に学習に取り組むための教材や指導方法に関するより一層の工夫が課題である。
〇Chromebookの活用等により課題提出を自ら行えるようになったが、機会の増加と、教材の質の向上が課題である。
〇生徒の「理解する力」を生かした授業中における「話す・聞く」場面や数学的な「見方・考え方」を使う場面を増やし、標準的な力の習得を図ることが課題である。
〇Chromebookの活用や授業の学びを家庭で活用・探究させるなど、指導計画の工夫改善による家庭学習の定着が課題である。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

【基本方針】「凡事徹底」のもとに「学び続ける心身の構え」を身に付けさせる。
〇各教科の基礎的・基本的事項の確実な定着を図るとともに思考力、判断力、表現力等を高める。
〇素直な姿勢・態度で、教師の指示や話を集中して聞くとともに友達のより良い姿からも学んでいく。
〇主体的・自主的な活動を促し、自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を育成する指導を行う。
〇課題解決学習と学習成果の発表の場を設け、知識や概念を活用して考えをまとめたり、説明、発表したりするなどの言語活動の充実を図る。
〇問題解決型、探究型の授業及び協働学習を取り入れ、自ら生徒が自ら考え、創る授業への改善を図る。
〇Chromebookの更なる活用によりGIGAスクール構想を進めるとともに、週案の質を向上させ、ねらい・まとめ、振り返りを明確化する。
〇総合的な学習の時間において、問題解決の過程及び問題解決能力、情報活用能力を学ばせる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点１ 板橋区授業スタンダードの徹底	視点２ 協働学習の導入	視点３ 指導と評価と支援の一体化
〇めあてを明示し、生徒が自身で問題を見出し、基礎・基本的な事項を活用して課題を解決する過程を踏まえさせ、学習活動の振り返りの時間を十分に確保することで、学び続ける心身の構えを身に付けさせる。	〇体験・協働学習を充実させ、学習成果の発表の場を設けたり、知識や概念を活用して考えをまとめたりさせ、説明、発表する力を高め、学び続ける心身の構えを身に付けさせる。	〇授業内容と家庭学習の内容を関連付け、週の指導計画を充実させるとともに、習熟度を踏まえた評価規準・基準を設定し、指導と評価と支援の一体化を図ることで、学び続ける心身の構えを身に付けさせる。

■いたばし学び支援プラン２０２５の実現に向けた具体的な取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
〇授業の開始と終わりは全員そろってあいさつをする。 〇授業規律を守り、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力等を高め、全ての教科の授業に集中して参加させる。 〇素直な姿勢・態度で、教師の指示や話を集中して聞き、手本となる生徒の態度をほめることで、仲間のより良い姿を「まねる」ように粘り強く指導を続ける。	〇デジタル教科書の活用、学習の見通し・学習課題への取組み・振り返りという一連の学習活動でChromebookを活用し、個別最適な学びを実現する。 〇Chromebookと電子黒板、一人一台端末のアプリケーションの活用を図り、自分の考えを発表したり、複数の友達と自身の考えを並べ、話し合いながら比較・分類したりすることで、考えの共有化を図り、個々の考えの深化を図るとともに、協働的な学びの実現につなげる。 〇教室環境を工夫し、ユニバーサルデザインの充実を図る。	〇協働的な学習や個別対応した課題提示等について、Chromebookの活用方法などの研修を行い指導力の向上を図る。 〇グループごとに研修テーマに即した活動を行い、授業内容等Chromebookを用いてまとめ、相互に活用できるようにする。 〇お互いの授業の参観、授業研究及びOJTを基に指導方法の工夫・改善を行う。